

ゆたしの地域の消防団

湯出中学校2年

永野

琴尾

ゆたしの地域の消防団の人たちはとても仲がいい。ゆたしのお父さんも消防団のリーダーである。今年、お父さんは部長になった。消防団は地域の防災のために活動している。あまりやくにたっぺいがないと言う人がいるかもしれないが、ゆたしはそうは思いません。もし、自分たちの地域で火事がおきたら、遠い所から来て消すよりも、自分たちの地域

熊本地方法務局・熊本県人権擁護委員連合会

の消防団の人が増えて消した言が火は早く消えるし、大きくなるがらない。だからゆたしは、自分たちの地域にはやっぱり消防団の人は必要だと思っ。

また、大きな火事があった場合、自分たちの地域の消防団の人だけでは消せない火は、ほかの所から来て、できるだけ多くの消防団で協力して消した言がいい。そう考えると消防団の人は本当に必要だと思っ。

さらに、消防団の人が学校の運動場で、ほ

う水の練習をしている姿を見ると、とてもか
つにみく見えます。ゆたはさの時、消防用
の人は、「大丈夫やって、火を消すのか」と思
いました。

これから、火事をおこなったりする人が
けて、生活していきたくります。自分たちの周
りで火事がおきたら、消防用の人たちのき役
ぶりをして、かり見たくります。本当に消防用
の人たちは、この世に必要かと思ひます。

熊本地方法務局・熊本県人権擁護委員連合会

消防用の人には、いろいろな所でいろいろな
活躍してほしくります。そして、消防用の人
は、「感謝」の気持ちを持って、毎日を見
ていきたくります。